

医療処置の まとめ

嚥下障害への対応

	胃ろう	経鼻胃管	点滴
口からの食事の継続	○	△ 管が喉を通るため 飲み込みにくさあり	○
飲み薬の継続	○	○	×
手術の必要性	あり	なし	なし
肺活量低下時	造れない	問題なし	問題なし
その他の特徴	半固形栄養剤を 使用可能	管が抜ける 危険性あり	感染症の 危険性あり

呼吸障害への対応

	非侵襲的人工換気 (NIV)	気管切開下人工換気 (TIV)	対症療法 (酸素・モルヒネなど)
付け外し	可能	不可	—
他者のサポート	必要	必要	不要
生存期間	やや延長	延長	変化なし
その他の特徴	痰や唾液が多い 時は使えない	会話ができない	呼吸器を希望しなく ても、きつさを取れる

意思決定 について



意思決定について

治療方針を決める上で最も重要なことは、「患者さん本人がどうしたいか」ということです。もし何らかの理由で患者さん自身が意思を伝えることができない場合は、家族などが患者さんの意思を推定して代弁する必要があります。

体の具合や環境の変化などによって、どうしたいかという考えが変わることは自然なことです。そのため、一度方針を決めたとしても、何度でも変更していただいて結構です。ただ、どうしてもして欲しいこと、して欲しくないことがあれば、早めに正確に伝えておいたほうがよいでしょう。

最も避けるべきことは、患者さんが望んでいなかった選択をしてしまうことです。特に問題となるのは人工呼吸器(TIV)の選択です。TIVは一度装着すると外すことが難しいため、その後の人生に大きく影響を及ぼします。急に呼吸がつかなくなったなどの緊急時に、患者さんの意識がはっきりしているとは限りません。もし意思が確認できない場合は、医師は命を救うために人工呼吸器を装着します。

いざという時に慌てることにならないように、信頼できる周囲の人達や支援するメンバー(主治医や看護師、療法士、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、保健師など)としっかり話し、どのような選択を取りたいのかという意思を全員で共有するようにしてください。